東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

幼児向けNHK教育番組を台湾に導入する可能性：屏東(ピントン）市における保育・幼稚園の保護者及び教師の意識調査

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2012-06-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 劉,怡萱, 和田,正人
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/127947

東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅱ　63: 243－253，2012.

幼児向けNHK教育番組を台湾に導入する可能性

――屏東(ピントン)市における保育・幼稚園の保護者及び教師の意識調査――

劉(リュウ)　怡萱(イセン)*・和　田　正　人**

情報教育分野

（2011年9月28日受理）

1．目的

本研究は，現在の台湾における幼児向けの教育番組の市場において，NHK幼児向け教育番組を導入する可能性について，以下の問題を検討することを目的とした。

（1）台湾の現状において，海外の幼児向けの教育番組に対する現在の需要はどのようなものか。

（2）台湾において海外の幼児向けの教育番組を導入することによって，教師や保護者に与える影響は何か。

（3）日本のNHK教育テレビの幼児向けの教育番組を台湾で導入した場合，どのような問題が生じるか。

上の３つの問題を調査し，現在の台湾における教育番組の状況について把握し，分析する。

2．幼児の教育番組と導入

2．1　子どもと幼児

「子ども」は乳幼児から高校生まで（0歳から18歳）を対象として，「幼児」は0歳から6歳までの子ども（就学前の子ども）を指す。

2．2　幼児向けの教育番組

テレビの魅力は識字力が弱くても，子どもが映像を視聴するだけで理解できることにある。また，家庭ではテレビの設置がゆきわたっており身近な存在である。テレビは時間と空間の制限を超え，子どもが外界の情報に接する主な手段となっている。

子どもは学習するためにテレビを視聴しようという自主的な行動は持たず，「番組が面白い」という感情で視聴している。したがって，子どもは教育性よりも，娯楽性の強い番組を好む。その現象は文化間の差異によらない[17]。しかし，テレビに関する研究では子ども向けの番組には娯楽性以外に，教育的なものも含めるべきであることを示した[16]。

先行研究によれば，テレビによる学習は子どもに対し処罰という性質がなく，チャンネルを自由に選択できるため，自己の主体性を発達することができ，かつ，わずかな学習の効果がある（Cole, et., 1972）。したがって，各国はテレビの特性を生かし，子ども向けの番組の内容制作に力を入れている。テレビのメリットを最大限に活用することで，教育的な内容を通じ，子どもの態度と社会性を向上することができる[13][14]としている。

簡単にいえば，「教育番組」とは，一慣して教育的な内容を放送するというテレビ局が制作した番組である。「幼児向けの教育番組」とは，幼児を対象とした，教育的な内容を取り扱った番組である。たとえ「番組」の名前に「教育」がなくても，子どもを対象としている番組のほとんどは，内容に教育性がある（ただし，全編がアニメであるものを除き，テレビ局が自己制作した番組に限る）。一般に多くの人々はアニメが幼児向けの教育番組であると考えており，実際は幼児向けの教育番組は幼児の需要と発達のために，視聴率を考慮し，教育の意義を含んだ内容で制作される番組である。子ども向けの教育番組は多種多様であり，例

＊　台灣友旺國際股份有限公司
＊＊　教育実践研究支援センター

として，動画，記録映像（ドキュメンタリー），クイズ形式，ホームドラマ，子ども向けニュース報道などである[2]。

どんな番組が幼児向けの教育番組であるかを判断する際に，番組の形式ではなく，番組の制作側が設定する視聴対象によって決定する[5]。本研究では子ども向けの教育番組の中で，特に就学前幼児の場合を検討する。

２．３　導入

本研究では「導入」について触れるため，「導入」に関する理論を以下に示す。

> イノベーション決定過程とは，個人（あるいはその他の意思決定単位）が初めてイノベーションに関する知識を獲得してから，イノベーションに対する態度を形成して，採用するか拒絶するかの意思決定を行い，新しいアイディアを導入・使用し，そしてその意思決定を確認するに至る過程のことである[15]。

下図で示している導入する過程の中で，本研究は「1．知識」と「2．説得」の段階を明らかにする。

本研究は，日本のNHK幼児向け教育番組を導入することは新しい方法であり，イノベーションという作業においては「知識」から始まる。「知識」の段階では，個人（あるいはその他の意思決定単位）がイノベーションの存在を知ることで，その機能を理解することが生じる。今まで台湾では海外の教育番組を導入することがあった。そのほとんどは欧米からの教育番組である。そこで，アジア圏の日本は文字や文化が台湾と類似している部分があり，幼児向け教育番組の制作や研究は技術的に台湾より豊かである。だが，台湾の人々は日本の子ども向け番組はアニメに関連したものだというイメージを持っており，大部分の人々が日本のNHKにおいて教育的な内容の番組があることを知らない。したがって，この情報を子どもと関係の深い保護者と幼稚園・保育所の教師に伝えれば，日本のNHKの幼児向け教育番組に興味を示すと考えた。

「知識」の段階が終了し，次の段階である「説得」は，個人がそのイノベーションに対して好意的または非好意的な態度を形成するときに生じる。本研究ではこの「説得」に基づき，アンケートやインタビューを通じて，日本のNHKの幼児向けの教育番組の情報を与え，それに対する保護者及び教師の態度を知り，さらに彼らの考えや意見を集め，日本の教育番組の「導入」の可能性がより確実であるかを判断する。

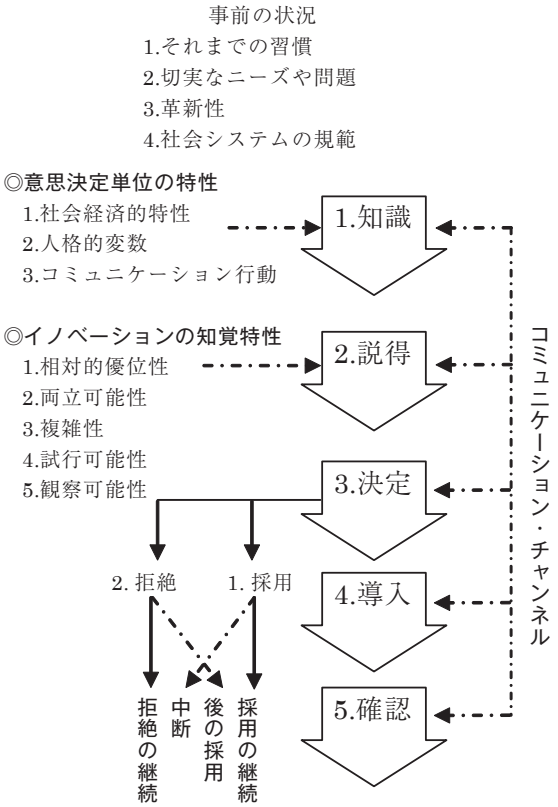

図１　イノベーション決定過程における５段階モデル
（*Rogers M. E.*（*2003*）. *Diffusion of innovations* から作成）

３．先行研究

３．１　台湾における幼児向け教育番組の発展と現状

ACNielsenの2010年８月視聴調査の資料によると，台湾で４歳以上の国民は１日のテレビを見る時間が平均して２時間40分である。台湾において現在インターネットを使っている人の大半は若者であり，一方，テレビをよく利用するのは年配と幼い子どもである。彼らにとってテレビはよく利用する便利な情報機器と思われる。以上の台湾の現状を見れば，テレビは主要なメディアであり，それから毎日得られる情報は私たちの生活に多くの影響を与えると考えられる。

しかし，児童福利聯盟文教基金会（略称：児盟）の2003年の調査によれば，放課後約７割の子ども達の主な活動が「テレビを見る」とある。子どもの視聴状況では，台湾の台北市における就学前の幼児は平日のテレビ視聴時間が１～２時間が最も多く，土・日曜日の視聴時間は平日よりも長く，さらに視聴時間帯は放課後と夕食前という結果を示した。（李嘉美, 2004）。2005年児盟の調査データでは，約半数の子どもはテレビの影響として「有仇必報（相手の出方に応じて仮借なく報復する。）」「未婚生子（未婚のカップルは子どもを産んだ状況。）」という認識があった。テレビ番

組の内容を保護者が管理していなければ，子どもは判断力が未熟なため，与えられる情報を疑うことなく吸収してしまう可能性もあると考えられる。したがって，子ども向けの教育番組は「質」の重要性があると思われる。

台湾の子ども向けの番組を制作は，48年間の歴史があるが，現在もまだ発展途上の段階である。テレビの発展に沿い，急速に情報化が進む状況で，根本的な問題がまだ解決できずに残っている。したがって，昔から子ども向け番組がどのように制作されたか，どのような問題があるのかについて，次のように，台湾における子ども向けの教育番組の1960年代初期から現在までの過程をまとめた。

３．２　1960年代―2000年代の子ども向け番組とテレビ局の発展

（1）1960年代の子ども向けの番組の特徴―萌芽期

台湾の最初の商業テレビ局は，「台湾電視公司（略称：台視）」であり，1962年10月10日に正式に開局した。この時期に子ども向けの教育番組は，台湾ではまだ戒厳時期だったので，中央政府が国語の手段として中国の文化，儒家の思想及び中国の歴史を国民の心に植え付ける政略的な内容のものであった。そして，台視は台湾最初の商業テレビ局であったため，どの年齢対象かを考慮せずに，子ども向けの番組は実際には子ども向けの内容ではなく，ほとんどが大人向けの難しい内容であった。大人の目を引き付けるため，子どもの立場を考えずに制作していた。

（2）1970年代の子ども向けの番組の特徴―穏やかな成長の時期

1971年に「中華電視公司（略称：華視）」が開局し，「西西歴険記」と「児童楽園」の２つの子ども向けの番組を放送したが，内容は台視と同様な形式で構成されていた。「中国電視公司（略称：中視）」が1968年に開局したものの，子ども向けの番組を放送し始めたのは1972年になってからのことであった。

1978年は台湾において幼児向けの教育番組に対する重要な一年であった。中視，華視は当年に「児童節目製播座談会（子ども向け番組の制作と放送研究協議会）」を行った。この会議を通し，専門家と学者が意見を交わし，テレビ側に教育面，娯楽面及び社会面についての考えを与えた。しかしながら，その主要な３つのテレビ局は，経費の出所先が主に広告を出す企業であるため，番組の視聴率が低ければ，中止にしなければならないという状況であった。次第に視聴者の興味を引きやすい子どもの才能ショーやクイズ中心の内容へと移り変わり，1960年代からその傾向が生まれ，1970年代はより活発になった。わずかに中視の「小小新聞」という番組は子どもをアナウンサーとして，室外でインタビューする内容であり，才能ショーやクイズが中心的であったこの時期において独特であった（1983年以後は，制作は難しくなり，子ども向けの番組から退却していった）。

（3）1980年代の子ども向けの番組の特徴―大発展の時期

1980年代は，「テレビ革命[1]」の影響で，テレビ番組は室外で撮影することが可能となった。子ども向けの番組も外で大自然を素材として制作された。それは子ども向けの番組の変革時期であり，科学の内容を扱った教育番組を重視し始めた。

そして，台湾の広播電視法の中で，「テレビ局は必ず２つ以上の自作の子ども向けの番組を持たなければならない」という規定に基づき，一年の間に，教育文化の番組の比率は年度の総合時数の20%以上に達した。

（4）1990年代の子ども向けの番組の特徴―現実と対抗する時期

この年代には1993年新聞局が「有線電視法（ケーブルテレビについての法律）」を制定し発表した。地上波テレビ以外，衛星テレビ，ケーブルテレビなどのチャンネルが多く登場した。1997年に台湾においてケーブルテレビの市場普及率は約80％になった。そして，海外からのチャンネルは1995年に「Disney Channel」，1998年に「Cartoon Network」が台湾の市場に入り，放送し始めた。1997年に「民間全民電視公司（略称：民視）」というテレビ局が正式開局し，台湾で第４番目の地上波チャンネルになった。このテレビ局は子ども向けの番組は母語（台湾語）で放送されることが流行っていた。そして，国際的な視野を育成する考えに沿って，英語の学習も1990年代末に，子ども向けの番組の市場で流行してきた。

ケーブルテレビと衛星テレビの新興，子ども向けのチャンネルの夢はやっと実現できた。これから，一日完全に子どもの番組を放送することができるようになった。1998年１月，「東森アニメテレビ」と

いう子ども向けのチャンネルが設立した。台湾の最初の子ども向けのチャンネルである。そして，同年の7月1日に公視は自分のチャンネル（公視電視台）を設立し，児童青少年の番組係という組織も開設した。

1990年の後半，番組の主題に関してとても著しい変化があった。内容は科目に限定されず，社会面と少数民族の生活も扱うようになった。

1997年以降，子ども向けの教育番組の数は少なくなっていた。公視の成立は，他の商業テレビにとって，子どもに放送責任も持たなくても済むという状況を作った。特に1999年に「広播電視法」の中で，子ども向けの番組を放送する規定の時数は取り消され，各テレビが自由に制作することになり，商業テレビは次第に子ども向けの番組制作を放棄し始めた。

（5）2000年代の子ども向けの番組の特徴―多元的な視点の時期

この時期の制作は，昔と同様な主題を使い，新たな放送技術へと変化し，テレビは昔よりも表現が豊かになったが，内容的に特別な変化はなかった。公視の「水果冰淇淋」はこの時期に一番視聴率が高く評判がよいという番組であった。この番組のメンバーは専門家と有名な役者が出演しており，とりわけ注目されていた。やがて，他の番組も同じ手法を用いて，時おり歌手と役者を出演させ，視聴率は上昇した。だが，番組の内容や独特なアイディアはだんだんと失われ，番組の元の目的もなくなり，アイドル崇拝的な内容の番組となった。

台湾は以前アメリカの子ども向けの番組を購入し放送していたので，制作の知識としてアメリカの技術と経験を吸収していた。したがって，東森幼幼台はヨーロッパ，日本からはアメリカ番組と違う番組を多く購入していた。公視においても「北欧のアニメ展」のシリーズ番組を放送し，台湾の国民が世界の子ども向けの番組を鑑賞することができた。

近年，公視はイギリスのBBC「テレタビーズ（Teletubbies）」の制作団体から協力を得て，「天線寶寶在台湾[2]」という幼児向けの番組を放送し，東森幼幼台もNHK番組「おかあさんといっしょ」の制作団体と協力し，新しい番組「YOYO新楽園」を制作した。

現在，台湾は国際化に向けて，積極的にInternational Children’s Days of Broadcasting（略称：ICDB）が行う動画のコンテストの活動に参加し，全世界で同時に放送するプランを計画した。また，2000年度に公視の「虎姑婆」というストーリーで「世界アニメのお話」の活動に参加した。この活動は26ヵ国も参加し，26件のアニメを制作した。（合計27個の言語バージョンがあり，80ヶ国で放送していた。）公視はこの活動の動画を再編成し，「聴故事遊世界」の名前をつけ，放送した。これは少ない資金をかけて高品質の番組を作る方法である。

政治大学の教授（呉翠珍）の2003年の統計調査や教育部の調査により，台湾はこの10間，地上波テレビ局は毎日20分の子ども向けの教育番組を放送し，小学校の子どもは毎日平均50分間視聴していることが分かった。テレビの取材が始まったことに伴い，芸能傾向の強い番組とアニメーションを用いることが増え，急激なコマーシャル量の上昇と商品の宣伝とともに，どのようにメディアが与える効果に対応するかを考えるべきだという主張があった。廣電基金の調査により，3歳から12歳までの子どもに人気のテレビ番組ランキングにおいて，10位以内に自作の教育番組や海外の教育番組は含まれておらず，ファンタジーなアニメ，ドラマ，バラエティ番組が主であった。したがって，独立した制作会社は子ども向けの教育番組を作らなくなり，他の番組になっていった。その状況を学者達が検討し，要因がまとめられた。台湾の自作の子ども向け教育番組には内容には独特なアイディアを持ち，多様な型式に努力していたが，結果として物足りない印象を視聴者に与えた。例えば，いままで公視や廣電基金の幼児向け教育番組は，海外の映画賞においてユニークな題材という点で候補にあがったが，結局は制作の精細度が足りないという理由で落選した。この事実は発想力はいいが，それを表現する技術力や資金力が足りないという現実の問題があることを証明した。

東森幼幼台は親子の交流を重視し，2001年度から，「幼幼台」という名から「親子台」という名に変った。朝から，子ども向けの教育番組を放送し，夜の時間帯は親が子どもと一緒に視聴できる番組となり，夜10時において保護者向けの家庭教育に関する番組の放送もあった。

今までに台湾の子ども向けの教育番組は約40年の歴史を持つが，その間ずっと廣電法上で社会文化番組とアニメの放送の間に置かれることが明示されなかった。したがって，経費，人材，技術，国際的なの情報と人間関係を強固にして発展していくべきだと思われる。教育のため，各国は子ども向けの公

立のチャンネルを成立した。今後台湾も公立の子ども向けのチャンネルを作ることが望まれる。

4．調査

本研究の調査は，研究者の出身地である台湾の屏東市の保育・幼稚園が調査協力を得られると考え，そこで，調査を行った。アンケートの構成は先行研究[2)]より，アメリカの幼児向け教育番組「セサミストリート」の制作と研究側が番組に対する評価の基準を参考し，また台湾の幼稚園教育要領の中で，ねらいと内容に基づいて評価の項目を作成した。

4．1　アンケート（保護者対象）

- 調査地域：台湾屏東市内の公立私立幼稚園と保育所
- 調査対象：幼稚園と保育園での子供の保護者

公立幼稚園	7園	74組
私立幼稚園	6園	50組
保育園	13園	120組
		合計：244組

- 形式：選択式の質問項目回答
- 質問の内容：

①台湾国内の幼児向けテレビ番組についての評価と考え（15問）

②海外の幼児向けテレビ番組に対して評価と考え（15問）

③親子の視聴状況（6問）

④今後日本NHK幼児向けの教育番組を導入することへの意識調査（5問）

保護者に参考とさせるため，NHK幼児向けの番組について，3つの番組紹介をアンケートの中に入れた。

4．2　インタビュー（幼稚園教師対象）

- 調査地域：台湾屏東市内公立私立の幼稚園
- 調査対象：現場で勤めている幼稚園教師

公立幼稚園　4所（4人）
私立幼稚園　4所（4人）
合計：8人

- 形式：研究者と一対一のインタビュー。
- 質問の内容：

①普段，幼児の行為や人間関係などでテレビの影響が示される状況。

②学校で幼児向けの教育番組を利用している状況。

③国内外で放送している教育番組に対しての評価と考え。

④日本NHK幼児向けの教育番組を導入することに関する質問。

※　教師にNHKの幼児向け教育番組を見せるため，パソコンで録画番組を再生した。全部で11番組を選べる。

5　分析と考察

5．1　アンケートの結果（保護者対象）

アンケートにおいて，④は日本NHK教育番組の導入に関することである。導入について賛成するという意識が多いという結果を得た（8人の教師も同様である）。国内外の幼児向け教育番組の評価①②について15問の質問項目の独立変数が，④の導入の従属変数に関係するかを重回帰分析で分析した。

1）台湾国内の教育番組の評価と導入意識の関連性

「②使った色は鮮明だ。」,「④発音ははっきりしている。」,「⑤内容は多様だ。」,「⑦放送する時間がよい。」,「⑧主題は子供の日常生活との関わりが深い。」,「⑫子供の身体を発達させる。」という項目は導入の5問と関係があることを表した。

2）台湾で放送している海外の教育番組の評価と導入意識の関連性

「①音声や効果音は豊かだ。」,「②使った色は鮮明だ。」,「⑤内容は多様だ。」,「⑥時間の長さは適切だ。」,「⑦放送する時間がよい。」という項目は導入の5問と関係があることを表した。

国内外両方の番組に対する重回帰分析の結果によれば，②の「使った色は鮮明だ。」，⑤の「内容は多様だ。」，⑦の「放送する時間がよい。」の項目が導入の問題と関係があった。すなわち，家庭視聴の場合，この3つ「番組を使用する色の鮮明さ」,「内容の多様性」,「放送時間帯の適切性」という要因は導入の可能性と密接な関係があると考えられる。アンケートの回答以外，22件の自由記述により，保護者はDVDの型式と多様な番組に注目する回答が多いことが示された。

アンケートの結果によれば，台湾の保護者は子どもの教育には関心を持っているが，一部の保護者は子どもが静かにしていれば良いという考えもあった。しかし，その保護者は子どもが熱中している番組が何の影響を与えるか深く考えていないので，放任，あるいは注意しないならば，番組の内容が良いか悪いかの判断ができず，情報の誤りや観念のずれがあると考えられ

る。

現在台湾国内の幼児向け教育番組の量は，保護者の回答によれば，両極端な意見があるものの，普通であると回答した保護者が一番多かった。この結果になった要因は，台湾の幼児向け教育番組は，内容的に似ている番組が多く，異なる分野の番組が少ないため，一部の保護者は似た内容の番組はもう十分と感じ，別の領域の番組が少ないと思えば現状は少ないと回答し，似た番組が多いと考えているならば，もう十分にあると回答したと考える。

５．２　インタビューの結果（幼稚園教師対象）

１）幼児がテレビと関係する日常の表現

①幼児の日常の遊び表現はアニメに影響されている。

幼児の行為表現について，女の子は「ままごと」をすることが多々あり，アニメの影響で，遊んでいるときに，アニメに登場するキャラクターを演じることがよくあると回答した。男の子も同様に，テレビで放送しているアニメの影響で，格闘するキャラクターのまねすることがあると回答した。

②幼児の行為は教育番組よりもアニメに影響を受けていることが著しい。

全てのインタビューの中で，教師はクラスの幼児の行為がアニメの影響を受けている状況が多いことがわかった。逆に，教育番組からの影響はあまりないと回答していた。子どもたちは，よくある言動はアニメの主題歌を歌うことやアニメの登場人物のまねをすることであった。特に「クレヨンしんちゃん」というアニメの言葉のまねをすることが多かった。

③教育性のあるアニメが登場してきている。

現在子ども向けのチャンネルで，「ドーラといっしょに大冒険」というアニメを放送しており，保護者と教師からは高評価であり，幼児達にもよく見せることがわかった。この番組の内容は時々英語を教えており幼児の日常生活にも関係があるため，教育性が高いと回答していた。

④多くの保護者はテレビ番組の内容に対し，あまり関心を持たない。

保護者とのテレビについての相談では，家でテレビを見ることが放任状態であることが多いと回答した。多くの保護者は仕事が多忙なため，幼児にとって番組を選択する時間や制限は重視していない。幼児が家で長時間テレビを見ると，学校の態度がよくないこともあり，教師は保護者が幼児の生活習慣について気を付けることが重要であるが改善することは難しいと述べた。

２）学校でのメディアの使用状況

①授業とまったく関係ない時間帯に見せる場合が多い。

多くの教師は，テレビでDVDを再生するのは，昼食の後，昼休みであり，既に食べ終わった幼児に見せる。教室で静かにしてもらうための方法である。もしくは，放課後，保護者がまだ迎えに来ていない幼児に，DVDを見せる。DVDは保護者から借りた，あるいは，教師が自分で購入したDVDである。この現状の理由は，おそらく視聴覚教材が学校とのつながりが弱く，授業で利用しにくいからであると考える。

②台湾の幼児向けの番組内容は多様ではない。

東森YOYO台の「YOYO點點名」という台湾の幼児向けの教育番組は，教師達が一番知っている教育番組である。体操やリズムダンスが中心で，多くの教師は教育性が不足していると回答した。また，台湾の教育番組は似たような型式が多く，毎回放送する内容にあまり変化が見られずそこが一番改善すべき点であると述べた。科学や自然についての分野がもっと多ければ，幼児にとって教育的によいと述べていた。

③海外の幼児向けの番組で，「テレタビーズ」以外に印象に残っている番組のほとんどはアニメである。

「テレタビーズ」という幼児向けの番組はイギリスのBBCというテレビ局が制作した番組である。「テレタビーズ」は繰り返し放送されており，他にもBBCで新しい幼児向けの番組を作り，台湾も導入し最近テレビで放送されている。それは「In the Night Garden（台湾正体版：花園宝宝）」（日本語での名称はまだない）という幼児向けの番組である。

④教師は自分で購入したDVDを授業テーマによって使い分けている。

授業で視聴覚教材を使いたい場合，公立の教師のほとんどは自分で購入する。私立の場合は保護者が提供したものや学校が購入した教材を用いる。

⑤国内の幼児向けの番組には，内容の評価に差がある。方海外の番組は内容が多種多様である。台湾はその点を見習い改善するべきである。

教師達は，台湾の幼児向けの番組はどこを努力したのか詳しくわからず，一方海外の幼児向けの教育番組は，キャラクターの設定が念入りであり，内容も充実していると回答した。そして，台湾の教育番組は悪いとは言えないが，まだ努力するべき部分が多くあると言及した。

3）日本のNHK幼児向け教育番組に関する意見と考え

①自主的，組織的に制作され，研究の工夫も見られる。

②自然分野の「しぜんとあそぼ」，お話の「テレビ絵本」と「こどもにんぎょう劇場」が台湾の子どもにとって一番適切な番組である。

③“こどもちゃれんじ（通信教育教材）”と同様な形式で導入すれば，受け入れられる可能性が高い。

④文化上の差異を解釈することが容易ではない。

⑤画面転換のテンポが速すぎ，眩しい動画を少なめにするほうが良い。

4）教育今後の希望と番組についての意見

①番組の教育性を強化するべきである。

教育性が必要であるという点はほとんどの教師の意見で一致していた。アニメの教育性は弱いので，幼児向けの教育番組は「教育性」をもっと強化しなければ，テレビが幼児に何か良い影響を与えているか分からなくなっていくと回答した。また，教育番組より，アニメの刺激は幼児に深い影響を与えるので，教育面を改善するべきだと述べた。

②学校と協同して教育番組を制作することを求める。

多くの教師は今後テレビ局が再び教育番組を制作するのであれば，学校との関連があれば教材として使いやすいと述べた。今まで教師達はほとんど自分で購入したDVD教材，あるいは，保護者から借りたDVDを再生しており，テレビで放送している教育番組を使ったことがないと述べた。その原因は，第一に，放送前に内容を知ることができない。第二に，学校で使える内容が少ない。第三に，ほとんど体操とリズムダンスのみであるからだと考えていた。

6．結論

インタビューとアンケートの結果により，教師と保護者は日本のNHK幼児向け教育番組を導入することに対し，賛成という結果を示した。導入に関係する要因では，鮮明な色による保護者や子どもへの印象，さまざまな分野の内容に触れること，放送時間が子どもの生活リズムに合うことを，保護者が家庭視聴の場合で一番重視すると示した。また，番組の導入に対し，教師と保護者の意見を整理して以下のようにまとめた。

1）教育性がある番組が子ども向けのチャンネルの中で比率が高いことを望む。

現在，子ども向けのチャンネル，あるいは一部のテレビ局の子ども向けの番組はアニメの比率が高いと感じられ，保護者と教師はそのような現象を望まなかった。保護者と教師にとっての「教育性」とは，子どもは番組を見ながら，楽しんで身につける技能や知識を学べることである。たとえば，言語学習，身の周りの生活習慣の養成，科学に好奇心を呼び起こすことなど。保護者は常に子どもが視聴している番組を見守ることができないため，うっかり見てしまった子ども向けではない番組は，幼児の認知の発達上でよくない影響を与える恐れがあると考えた。なお，最近の台湾国内幼児向け教育番組の内容と種類は似たような内容の番組が多くなり，全体的に見れば，教育番組は不足している。したがって，幼児向けの教育番組が多ければ，それが不適切なアニメに取って代わってくれることを望んでいると思われる。

2）DVD形式での幼児向け教育番組の需要がある。

現場で働いている教師，もしくは仕事が忙しい保護者にとって，いつも子どもを見守るのは難しい。また，子どもに良いテレビの放送時間帯は，学校の時間に合わせないと，もったいないと考える。そして，学校にいる1日の時間帯は既に決まっているが，子どもの状況は予測できない場合がよくあると考えられる。授業では視聴覚教材が必要であるが，直接放送番組を見る時には，止めて説明することができない，あるいは子どもの事情で臨時に処理しなければならない場合があるため，番組の視聴がスムーズに進まないと考えられる。したがって，DVDの形式で保護者と教師が自分で選択して必要な番組を購入すれば，時間に制限されず，何回も繰り返すこともでき，より活用できると思われる。

3）国際的視野を養うと同時に，台湾の文化も含んだ番組の作成を望む。

調査によれば，保護者と教師はNHKの幼児向け教育番組を導入することに反対してはいなかったが，全てを日本式の教育番組にすることに対し，内容に考慮することが必要であることを示した。導入すると，必ず中国語の吹き替えと字幕を必要とし，内容が台湾で通用するかどうかに疑問を持っていた。一部の保護者や教師の考えとしては，番組が異なる文化の素材を使い，子どもに国際的な視野を育てることに賛成するが，ある保護者は海外の文化に触れる前に自国の文化を先に知ることが重要だと述べた。現在たくさんの海外の文化が台湾に深く浸透したため，子どもにとっ

て，身の回りは台湾の文化のみではなく，海外の文化も生活する環境にある状態になっていたため，教育番組の内容も自国と海外の文化を合わせ，子どもに国際の認識をさせるべきだとする保護者や教師からの回答があった。したがって，番組を通し，子どもが様々な海外の文化を知ると，国際的視野を育成でき，同時に台湾の文化も番組の中に加えたら，子どもはそれこそ自国文化を知ったうえで，海外の文化に触れられるので，意味があると回答していた。

7．今後の課題

テレビ局は予算不足であるため，政府は，海外にて制作経験のある関連研究の学者，及びテレビ局の担当者と検討し，海外の良い幼児向け教育番組を導入することを計画するなどして，台湾の幼児向け教育番組の市場に刺激を与えるべきである。また，番組の素材として，国際的視野及び台湾文化を兼ね備えるものが理想的な教育番組である。もうすぐデジタルテレビ時代を迎えるため，テレビが学校でどのように活かすことができるかの実践研究は重要である。テレビの視聴に対し，多くの教師や保護者はテレビの利用をちゅうちょしているので，使用する場合はまずメディアの認識が必要であり，テレビ関連の教案も注目することで，教育上もっと効果的に活かすことができるであろう。

引用・参考文献

1）張寒梅（2007）．國内幼兒節目産製策略及商品效益初探（Discussing Domestic Kid’s TV Programs Productions Strategy and Merchandise Benefit）．世新大學傳播管理學系碩士學位論文

2）李秀美（2001）．我們在玩蹺蹺板―電視兒童節目實務與理論．三民書局股份有限公司

3）李秀美（2003）．四十有惑：台灣兒童電視節目發展概況．媒體識讀教育月刊．媒體識讀推廣中心

4）李怡慧（2004）．台灣本土幼教電視頻道節目内容及時段編排對幼兒收視與模仿行為之研究（The study of Taiwan-produced children’s television programming and scheduling on children’s behavior）．南台科技大學資訊傳播研究所碩士學位論文

5）林瑞婉（2010）．當兒童變成商品：台灣兒童電視節目發展的政治經濟分析（When children become commodities: Political and economic analysis and the development of Children’s Television Programs in Taiwan）．世新大學新聞研究所碩士論文

6）劉幼琍・蔡琰（1995）．電視節目品質與時段分配之研究．廣播與電視，2（1）：89-123

7）詹棟樑（1994）．兒童人類學―兒童發展．五南圖書出版公司

8）唐台齡（2010）．台灣電視兒童節目半世紀之路（1962-2009）．巨流圖書股份有限公司

9）拓墣產業研究所（2004）．第三次電視革命―數位電視產業趨勢大解析．拓墣科技

10）兒童福利聯盟文教基金會（2006）．2006年台灣地區兒童傳播權調查報告．兒童福利聯盟文教基金會

11）行政院新聞局（2007）．中華民國96年電視事業（含無線，衛星及有線）産業調査研究．（http://info.gio.gov.tw/ct.asp?xItem=46355&ctNode=4642&mp=1）．2010. 12取得．

12）行政院新聞局（2007）．全球競爭時代台灣影視媒體發展的策略與政策規劃．中華民國行政院新聞局的研究報告．（http://info.gio.gov.tw/ct.asp?xItem=34739&ctNode=4642&mp=1）．2010. 12取得．

13）Fisch, M. S. (2002). Vast wasteland or vast opportunity? Effects of educational television on children’s academic knowledge, skills, and attitudes. In J. Bryant, & D. Zillmann (Eds.), *Media effects: Advances in theory and research (2nd ed.)*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

14）Fisch, M. S. (2004). *Children’s learning form educational television: Sesame Street and beyond.* Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

15）Rogers M. E. (2003). *Diffusion of Innovations*. Free Press（三藤利雄訳（2007）．イノベーションの普及，翔泳社；唐錦超（2009）．創新的擴散，遠流出版事業有限公司）

16）Singer, L. J. & Singer, G. D. (1983). Implications of childhood television viewing for cognition, imagination, and emotion. In J. Bryant & D. R. Anderson (Eds.), *Children’s understanding of television: Research on attention and comprehension*. New York: Academic Press.

17）Vorderer, P., & Ritterfeld, U. (2003). Children’s future programming and media use between entertainment and education. In E. L. Palmer, & B. M., Young (Eds.), *The faces of televisual media* (2nd ed.,). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates

18）媒体学堂囝仔影音公社．（http://www.cm-workshop.com/workingA.php）

（註）アニメの紹介：Wikipediaで「中文」から「日本語」に変えて参考した。

本研究は，劉怡萱2010年度東京学芸大学大学院教育学研究科提出修士論文の一部である。

注

1. テレビ革命：テレビの変化には三回の革命がある。1．無声→有声，2．黒白→カラー，3．デジタル型式（拓墣産業研究所，2004）
2. 天線寶寶在台湾：「テレタビーズ（Teletubbies）」は台湾正体版で「天線寶寶」と翻訳し，あるコーナーには台湾の幼児の日常生活の映像を入れた。

幼児向けNHK教育番組を台湾に導入する可能性

―― 屏東(ピントン)市における保育・幼稚園の保護者及び教師の意識調査 ――

A possibility of diffusion of NHK infant educational program in Taiwan

―― Attitudes of parents and teachers towards infant educational TV program in Pin Tong city ――

劉(リュウ)　怡萱(イセン)*・和　田　正　人**

I-HSUAN LIU and WADA Masato

情報教育分野

Abstract

This study surveyed the infant educational TV program in Taiwan and inspected the diffusion of NHK infant educational program in Taiwan. Two hundreds and fourty four parents of infants answerd the questionnaires and eight kindergarten teachers received an interveiw. On Pin Tong prefecture, the parents and the teachers needed many kinds of infant TV programs. They strongly expected that Taiwan TV station cooperated with NHK TV station and these stations made educational programs based on the Taiwanese culture.

Key words: An education program for infants, introduction of the TV program, NHK educational TV, Taiwan, preschool children

Department of ICT Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

摘要： 本研究主要針對台灣學齡前幼兒收視的幼教節目為主要目標，探討台灣現今的幼教節目，並從現狀中分析與檢證今後是否能引進日本NHK教育電視台的幼教節目。

根據台灣兒童福利聯盟教育基金會的調查發現，台灣幼兒一天之中與電視相處的時間越來越長，進而發現觀看的節目大都為卡通節目，較少的節目是以教育為出發點。無線電視台往年會有自製幼兒節目，近幾年來漸漸沒落，走向買進國外卡通為主，而台灣有線的幼教電視台，大都走向唱歌，律動類型為多，較少針對不同年齡的幼兒製作適合的節目。

英國BBC製作的天線寶寶，在台灣播出後，受到許多迴響，最主要的原因在於其類型與內容上都與台灣幼教節目有所差異，帶來新鮮感。這樣的現狀環境下，台灣如果無法花成本製作適合幼兒年齡的教育節目，勢必走向引進國外優良的幼教節目來提供給台灣幼兒觀看是較為合適的。日本NHK教育電視台的節目長年經營且用心規劃設計給幼兒，並做分齡節目，它的內容與收視狀況是值得探討，因此對於日本NHK教育電視台的節目內容讓台灣家長與幼教老師觀看，他們想法會是如何，是否能夠帶給幼兒在認知發展上的成長是為本論文研究的焦點。

幼兒教育節目，本是以學齡前幼兒為對象來做研究，但幼兒在認知發展的過程，在認字與語言上的理解因處於未成熟階段，所以本研究轉而以幼兒密切相關的幼稚園老師與家長為對象來展開調查（2010.08.11 ～ 2010.09.13），在這

* Taiwan YouWang International Corporation LTD

** Center for Research and Support for Educational Practice

段期間實施了問卷與個人訪談調查。調查地區為臺灣的屏東縣屏東市。

問卷的部份，26所公私立幼稚園與托兒所協助配合填寫，回收了總計244份的紙本。而在個人訪談部份，與8位現職幼稚園老師進行一對一開放性訪問。在問卷與個人訪談的內容主要基於以下4點來設計。1．近年來在台灣對於您所接觸過的國內外幼教節目的評價與看法。2．一般家庭的收視狀況。3．對於日本的NHK教育電視台所製作的幼教節目之導入，其收視意願與想法。4．今後，針對台灣國內外幼教節目之期望與意見。另外，在問卷方面提供日本NHK三個節目的介紹提供家長參考；在與幼教師一對一訪談中，播放日本NHK的幼教節目讓幼教師觀賞並聽取想法與意見。

根據調查結果，現在台灣學齡前幼兒收看內容，比起幼教節目，很明顯地發現卡通的影響相當深。對於幼兒的電視收視行為之限制，「讓孩子自由觀看」與「常常會注意孩子的收視」的家長是較為少數的，無論是在國內或是國外的節目，多數家長是「偶爾會注意」的比例較多。同時調查結果顯示出幼稚園園所內在課堂上使用幼教節目的較為少數，多數都是在中餐過後以及放學後使用的狀況較多。導致此項結果可能是因為節目的內容與幼稚園的連結性較弱，難以搭配學校使用之緣故。另外，家長和幼稚園的老師，在國外的幼教節目中，印象最深刻的是「天線寶寶」。次為都是國外的卡通。會造成這樣結果可以考量到是因為不一樣的內容與型式的國外幼教節目在台灣較少的緣故。

對於台灣國內外的幼教節目，大都是「滿足」為多數評價。而在NHK的幼教節目之導入，家長幾乎是贊成的。根據家長的問卷調查與老師的訪談結果，了解到以下3點。

1．追求有教育性質的節目。

2．經常使用一般市面上販售的視聽教材（DVD或Video）。

3．培養國際視野的同時，也須製作包含台灣文化的節目。

電視台的資金與技術的不足是台灣目前的現狀，再加上開始有傾向國外的教育節目的狀況，而幼教節目因為同類性質過多無變化，今後對於導入日本NHK幼教節是有可能性的，但是不能只是單純導入，必須考量能與台灣的文化並行，希望能與日本進行共同合作事業計畫，來製作真正適合台灣幼兒收看的節目，才是家長和老師最期望看到的遠景。

關鍵字：幼兒教育節目（幼教節目），導入，NHK教育電視台，學齡前幼兒

要旨： 本研究は台湾における就学前児童向け教育番組の現状を把握し，NHK教育テレビが制作した幼児向け教育番組を台湾に導入する可能性を検証した。本研究は保育園及び幼稚園の教師8名と保護者244名を対象に2010年にアンケートとインタビュー調査を実施した。調査地域は台湾の屏東（ピントン）県屏東市で行った。調査の結果より，テレビ局は資金や技術不足によって，海外の教育番組に頼る傾向があり，幼児向け番組も教育番組の種類が不足しているため，NHK幼児向け教育番組を台湾に導入する可能性があることが明らかになった。導入するに当たり，日本の番組をそのまま導入することではなく，日本と台湾が協同した事業によって，台湾の文化に適応した教育番組を作成することが，保護者と教師の一番の要望であった。

キーワード: 幼児向け教育番組，テレビ番組の導入，NHK教育テレビ，台湾、就学前幼児